

●論壇

道路行政の課題二、三

山根 孟*

Some Subjects to be Solved in Road Administration

Tsutomu YAMANE*

道路整備そして道路交通の管理には、さまざまな要請と期待、さらにはきびしい批判がある。これらに答えるには、21世紀までに及ぶ長期間を要するものから、比較的短時間で解決し得るものまでにわたる。昭和53年度を初年度とする第8次道路整備五カ年計画は、21世紀初頭を目途とした道路整備の長期構想、昭和65年度を目標年次として緊急施策を達成するための中期計画を基礎に、多岐にわたる道路整備を5つの施策、すなわち道路交通の安全確保、生活基盤の整備、生活環境の改善、国土の発展基盤の整備、維持管理の充実に分析集約して、それぞれの重要性を総合的に勘案し、整備を推進するものとしている。

これら道路整備を通ずる中心的な課題は、地域社会の日常生活基盤としての市町村道から、国土構造の骨格としての高速自動車国道にいたるまでの道路網を体系的に整備することであり、道路網を構成するそれぞれの道路を、その果たすべき機能、利用される交通の質的量的需要、地域ないし沿道環境に適合した構造とすることである。

いうまでもなく道路は、徒歩、自転車、自動車などの交通施設としての機能を持つが、一方において、生活の場、生産の場つまり交通需要発生を接続させる機能、供給処理施設などライフラインの収容空間、衛生空間、防災空間などの公共空間を提供する機能を持つ。これらの機能をすべて単独の道路に負担させることは適切でなく、道路網として有機的に分担させることが必要である。例えば、主要幹線道路が都市を貫通し、大量の通過交通、都市内交通、住区内交通、さらには徒歩、自転車交通を一手に処理せざるを得ないため、交通事故、環境悪化、交通混雑を激化させているなどである。わが国の道路網整備は、機能的体系化の過程にあるのである。

このような過程における重要な課題のひとつは、道路交通の安全かつ円滑な運行に資する道路交通情報業務の充実である。このため道路管理者間の連絡網を設け、道路の危険箇所、交通状況などに関する情報を収集し、道路標識、道路情報板などによる道路利用者への情報の直接提供を行なうほか、昭和45年1月に発足した日本道路交通情報センターが警察および道路管理者の情報を一元化し、これを迅速かつ広域的に提供し、一般へのサービス向上に努めているところであるが、より一層の拡充をはからなければならないものと考えている。

当面する課題として、幹線道路の沿道環境保全対策をあげなければならない。これには、自動車構造、道路構造、交通規制の各側面からの施策にあわせ、道路網の機能的体系化、沿道土地利用の適正化、都市再開発などを総合的に推進する必要がある。道路管理者としては、沿道土地利用を考慮した道路構造の採用、環境施設帯、遮音壁の設置、緑化などの道路構造の改善、都市における環状線あるいはバイパスの建設などを促進するほか、昭和51年度からは緊急施策として、有料の自動車専用道路の沿道の騒音がとくに著しい住宅に対する防音工事の助成など、52年度からは、幹線道路の周辺後背地に対して遮音機能を持つ沿道指向型建築物を誘導する施策などを導入したところである。今後の検討課題は、幹線道路と調和のとれた適正な土地利用を実現する方策の探究とその制度化である。

道路行政には、その他解決すべき多くの問題をかかえている。各位のご指導、ご鞭撻そしてご理解、ご協力を切に願うものである。

*建設省道路局長

Director General, Road Bureau, Ministry of Construction